

登録コード	UA104500	開講年度	2026				
授業題目	解析手法論 ・ 心理学研究法特論				担当教員	三和 秀平 他	
					副担当	島田 英昭	
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	金曜・2時限		
				授業形態	講義		
信大コンピテンシー	該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」				【授業の達成目標】		
	2 4 UAカリ・総人社・心理長野・発達・認知・人間科学, 2 4 UAカリ・総人社・心理長野・臨床心理学, 2 3 UAカリ・総人社・心理長野・発達・認知・人間科学						
	【研究科共通】自身の専門分野における高度な知識と技能を有する。				心理学研究法に関して、自身の専門分野における高度な知識と技能を身につける。		
	2 6 UAカリ・総人社, 2 5 UAカリ・総人社, 2 4 UAカリ・総人社・心理長野・発達・認知・人間科学, 2 4 UAカリ・総人社・心理長野・臨床心理学, 2 3 UAカリ・総人社・心理長野・発達・認知・人間科学						
	【研究科共通】量的・質的分析方法を身につけると同時に、各領域独特の解析手法を学習し、分析力を培うとともに、領域間における手法の差異を認識することにより、各領域の特徴を学び多面的に展開できる応用力を有する。				心理学研究法に関して、量的・質的分析方法を身につけると同時に、各領域独特の解析手法を学習し、分析力を培うとともに、領域間における手法の差異を認識することにより、各領域の特徴を学び多面的に展開できる応用力を身につける。		
	2 6 UAカリ・総人社, 2 5 UAカリ・総人社						
	【研究科共通】人間と社会を探究する学問分野間の総合的な知見を活かし、俯瞰的な視野で課題を捉える力を有する。				心理学研究法に関して、人間と社会を探究する学問分野間の総合的な知見を活かし、俯瞰的な視野で課題を捉える力を身につける。		
	2 4 UAカリ・総人社・心理長野・発達・認知・人間科学, 2 3 UAカリ・総人社・心理長野・発達・認知・人間科学						
	【心理・長野臨床以外】心理学分野の高度な知識・技能を有する。						
	【心理・長野臨床以外】量的・質的分析方法を身につけると同時に、地域・社会・経済の抱える課題について、課題解決に必要な情報を収集する能力及び収集した情報を適切に分析する能力を有する。各領域の特徴を学び多面的に展開できる応用力を有する。資格取得を目指すものは、心理に関する支援を要する者の心理状態を分析する力、心理学分野の知識・技能を相談及び助言に応用する能力を有する。						
(2)授業の概要	人文社会科学、特に心理学で求められる応用的統計手法を取り上げ、解説・演習を行う。						
(3)授業計画	第1回：共分散構造分析の基礎（島田） 第2回：共分散構造分析に使われるソフトウェア（島田） 第3回：パス解析モデル（島田） 第4回：因子分析モデル（島田） 第5回：適合度指標（島田） 第6回：多母集団同時分析（島田） 第7回：共分散構造分析の実践例（島田） 第8回：探索的因子分析と確認的因子分析（三和） 第9回：確認的因子分析の実践（三和） 第10回：媒介分析の基礎（三和） 第11回：媒介分析の実践（三和） 第12回：効果量と信頼区間（三和） 第13回：メタ分析の基礎（三和） 第14回：メタ分析の実践（三和） 受講生の予備知識、希望等に応じて内容を変更することがある。 外部実習等により欠席する場合には、担当教員が相談を受け付け、指示を行う。 授業アンケートを実施する。						
(4)成績評価の方法	● 以下を総合して判定する。 島田担当分：授業への参加と議論（50％）、課題（50％） 三和担当分：授業への参加と小課題（50％）、最終課題（50％） 評価割合は若干の調整を行うことがある。 ● 得点率による評価基準は次のとおりとする。 90％以上 秀、89-80％ 優、79-70％ 良、69-60％ 可、59％以下 不可。						
(5)成績評価の基準	【卓越している】心理学研究法に関する知識・技能等について、極めて高い水準にある。 【かなり上にある】心理学研究法に関する知識・技能等について、非常に高い水準にある。 【やや上にある】心理学研究法に関する知識・技能等について、高い水準にある。 【その水準にある】心理学研究法に関する知識・技能等について、一定水準にある。						
(6)事前事後学習の内容	● 授業内容について、振り返りを行う。 ● 授業内容について、書籍やネットなどで復習し、理解を深める。 ● この授業は90時間の学修を必要とする内容です。従って、60時間以上の時間外学習が必要となります。						
(7)履修上の注意	心理学分野の学生を主な対象とした授業であるが、他分野の学生も相談の上受講が可能である。						
(8)質問、相談への対応	担当教員にメール等で個別に連絡する。						
【教科書】	指定しない。						

【参考書】	豊田秀樹 (2014). 共分散構造分析 [R 編] —構造方程式モデリング— 東京図書 大久保街亜・岡田謙介 (2012). 伝えるための心理統計: 効果量・信頼区間・検定力 勁草書房 岡田涼・小野寺孝義(2018). 実践的メタ分析入門 ナカニシヤ出版
-------	---